

序 文

福山城は、元和5年（1619年）徳川譜代の水野勝成が備後10万石の領主となり、西国の鎮衛として元和8年（1622年）に完成させた城です。そして、築城と並行して、城下町の整備と新田開発が進められ、現在の福山市の市街地と産業の基礎がつくられました。

以降、水野家5代、松平家1代、阿部家10代と歴代藩主により永々と引き継がれ、幕末まで福山藩の政治の中心となりました。

1873年（明治6年）の廃城後、天守、伏見櫓、筋鉄御門、御湯殿を除いてほとんどの建物が取り壊され、更に、1945年（昭和20年）8月の福山空襲により天守と御湯殿を焼失しましたが、1966年（昭和41年）に市制施行50周年記念事業として、天守、御湯殿、月見櫓などが復興整備され、戦災を免れた伏見櫓、筋鉄御門とともに福山市のシンボルとして市民に親しまれてきました。

本市では、2022年（平成34年）に福山城築城400年を迎えるに当たり、福山市発展の基礎を築き、市民の誇りとして親しまれている福山城跡の歴史的価値を明らかにし、その保存・管理に努め、後世に確実に継承するとともに、より多くの人に福山城の価値や魅力について理解を深めていただけるよう活用・整備を図っていくため、史跡福山城跡保存活用計画を策定いたしました。

この計画に基づき、史跡福山城跡の保存と活用を市民の皆様とともに進め、次世代へ継承してまいりますので、御理解と御協力をいただきますようお願い申し上げます。

最後に、本計画の策定に当たり、御尽力いただきました策定委員の皆様を始め、文化庁、広島県教育委員会並びに関係する皆様方に心から厚くお礼を申し上げます。

2018年（平成30年）3月30日

福山市教育委員会
教育長 三好 雅章